

Japan-YWP 2025年度 総会

2026年3月8日

Japan-YWP 第8期代表 野村洋平

■Japan-YWPの概要

Japan-YWPは、IWA日本国内委員会の下部組織として2010年3月5日に設立され、水分野における学術的研究・知識の普及、水環境保全への貢献を目的とする若手中心の組織である(図1)。2026年3月末時点での登録会員数は約400名であり、教育機関、研究所、民間企業、官庁・自治体など、様々な所属の方がJapan-YWP会員となっている。産官学の垣根を越えて会員同士が人的ネットワークを構築し、情報の発信と収集を行うプラットフォームとなることを活動理念として掲げている(図2)。

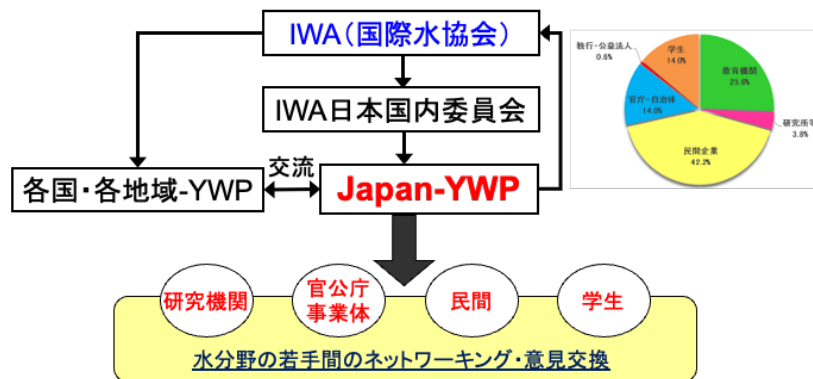


図1 Japan-YWPの位置づけ、会員の所属

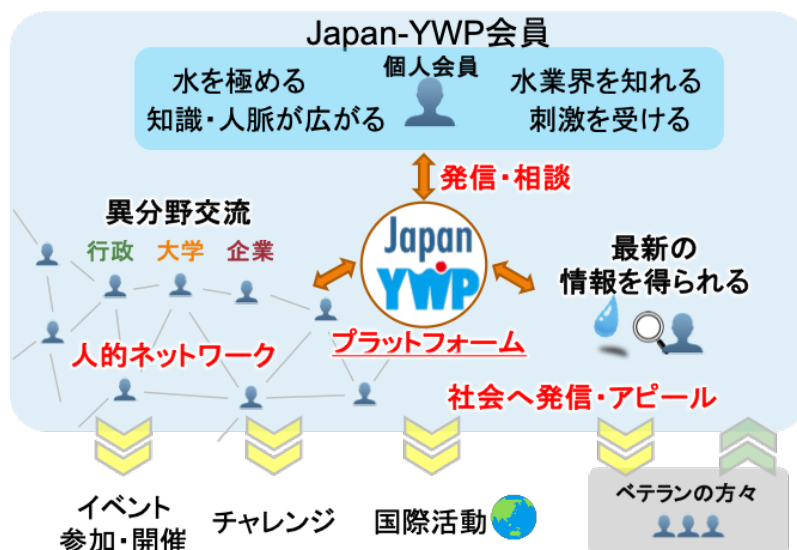


図2 Japan-YWPの活動理念

■運営体制

組織やイベントの運営は18名の運営委員が取りまとめており、4名のアドバイザーの協力を受けて活動を行っている(表1)。

表1 運営体制

代表	野村洋平 (京都大学)
副代表	高田一輝 (三菱総合研究所) 長尾麻未 (NJS) 渡利高大 (長岡技術科学大学)
委員	相原雅紀 (中央大学) 池田直生 (JFEエンジニアリング) 石井淑大 (国土技術政策総合研究所) 神田 峻 (水ingエンジニアリング) 小林風太 (日水コン) 佐藤雄梧 (香港科技大学) 多田悠人 (京都大学) Tae Hyun (Calvin) Chung (東京大学、University of Alberta) 中島芽梨 (産業技術総合研究所) 中屋佑紀 (北海道大学) 本間亮介 (京都大学) 松永光司 (東京理科大学) 三輪 徹 (産業技術総合研究所) 村上智香 (日水コン)
アドバイザー	阿部秀夫 (公益社団法人日本水道協会) 若公崇敏 (国土交通省水管理・国土保全局) 片山浩之 (東京大学大学院工学系研究科) 藤原 拓 (京都大学大学院地球環境学堂)

■活動の状況

2025年度の活動実績を表2に示す。公益財団法人西原育英文化事業団、公益社団法人日本水環境学会、下水道広報プラットホーム、株式会社日本水道新聞社、第19回 IWA 汚泥管理に関する国際組織委員会の支援を受け、シンポジウム等のイベント開催や国際連携を実現した。活動内容はニュースレターを通じて会員へ紹介するとともに、寄附実績をホームページに公開している。

表2 2025年度の活動

時期	イベント内容
6.18～6.20	3rd IWA-YWP Canada Conference 2025 (図3)
7.4	5th AEET Workshop and Japan-YWP Symposium in Nagaoka (図4)
7.31	下水道展ツアー (図5)
9.2	Hybrid Seminar on “Bio-Electrochemical Technology for Environmental Protection” (図6)
9.17	第23回JWRC水道講座
10.9	Japan-YWP×Wavemakers United共催 "Future is Now" (図7) 大阪万博・オランダパビリオンにて実施 ! ! !
10.11	Japan-YWPお仕事セミナー2025 @関西 (図8)
10.18	Japan-YWPお仕事セミナー2025 @関東 (図8)
10.21～ 10.24	The 19th IWA Conference on Sludge Management (図9) Japan-YWPが運営サポート。YWP Networking Eventの開催 ! ! !
12.19	第24回JWRC水道講座
1.7	Czech-YWP共催ウェビナー “Carbon Footprint Reduction in the Water Sector”
3.8	Japan-YWP15周年記念シンポジウム (図10) 場所:一橋講堂

Contents

Japan-YWP15周年を国際発信！！！！

Canada-YWP主催国際会議での活動と9/2セミナーの紹介

2025年6月18日～20日にカナダ・アルバータ大学で開催されたCanada-YWP主催の国際会議において、Japan-YWPの活動についてポスター発表を行いました。2010年の設立から現在に至るまでの活動の歴史、会員数の推移、国内外でのシンポジウム開催、若手研究者・技術者のネットワーキングなど、これまでの15年間の取り組みを紹介しました。発表時には多くの参加者が立ち寄り、活発な意見交換が行われました。

また、日本の下水道におけるユニークな取り組みの一例として、「マンホールカード」を展示しました。地域ごとの特色あるデザインや観光資源としての新たな価値に加えて、子ども達が下水道を知り学ぶきっかけにもなっていることに感銘を受けている様子でした。

今回の参加を通じて、Japan-YWPのこれまでの活動に合わせて、日本の下水道・地域文化の魅力を広く発信することができ、さらに現地のCanada-YWPとのネットワークを築くことができました。今後も引き続き、若手の研究者・技術者の交流と発展に寄与する活動を推進してまいります。

早速、9月2日に開催した“**Bio-electrochemical Technology for Environmental Protection**”では本国際会議で関係を築いたCanada-YWPメンバーをはじめ国内外から第一線で活躍する研究者をお招きし、対面+オンラインのハイブリッド形式でのセミナーを開催いたしました！

最新のバイオ電気化学技術を環境保全に応用するための最先端研究を紹介し、国内外の研究者とのネットワーキング、バイオ電気化学技術に関する最新の知見を得られる機会となりました。詳細は次号ニュースレターにてご紹介いたします。



ポスター発表（15年間の活動を紹介！）



日本のマンホールカードの紹介

図3 3rd IWA-YWP Canada Conference 2025における
Japan-YWPの活動紹介とマンホールカードの紹介

Contents 5th AEET Workshop and Japan-YWP Symposium in Nagaoka

2025年7月4日、アオーレ長岡にて「第5回先端エコ環境技術（AEET）ワークショップ」と「Japan-YWPシンポジウム」が開催されました。本ワークショップは、水環境分野の若手研究者や専門家がアイデアを交換し、人的ネットワークを広げ、第一線で活躍する研究者と交流する場として、活発な議論が展開されました。また、学際的な連携や革新的技術による環境課題解決への期待が一層高まる機会ともなりました。

今年度は、アジア各国をはじめとする地域から7名の招待講演者が登壇し、最新の研究成果と独自の視点が共有されました。会場には大学教授、研究者、学生など多彩な参加者が集まり、持続可能な水・環境研究に対する国際的な関心の高さがうかがえました。

インド水文学研究所（NIH）のRao博士は「インドにおける未処理下水処理問題」をテーマに基調講演を行い、都市化の進展に伴う課題と国際連携の重要性を強調しました。続いて、韓国・ゲント大学グローバルキャンパスのNguyen博士が膜技術の最新研究を紹介し、マレーシア・マラヤ大学のChua教授はDHSリアクターによるアンモニア除去の有効性を報告しました。さらに、タイ・NSTDAのSuraksa博士は、メタン生成を高める嫌気性微生物群集のスケールアップ研究を紹介しました。

後半では、NIHのTyagi博士がインドにおける水・廃棄物管理の実践例を発表し、産総研の成廣博士が長岡技術科学大学との共同研究（BIL、COI-NEXT）を報告、農業や地域特産品への波及効果を強調しました。最後に、スリランカ・スリジャヤワルデネプラ大学のHewawasam博士が都市下水処理に関する革新的戦略を提案しました。

閉会にあたり、京都大学の野村洋平博士（Japan-YWP代表）が一日の議論を総括し、今後のプログラムを紹介。参加者間の知識交流と国際ネットワーク構築の重要性を改めて確認し、盛況のうちに幕を閉じました。



Nishihara
CULTURAL FOUNDATION
公益財団法人 西原育英文化事業団

本シンポジウム開催にあたって、公益財団法人 西原育英文化事業団よりご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

図4 WET2025併催
“5th AEET Workshop and Japan-YWP Symposium in Nagaoka”



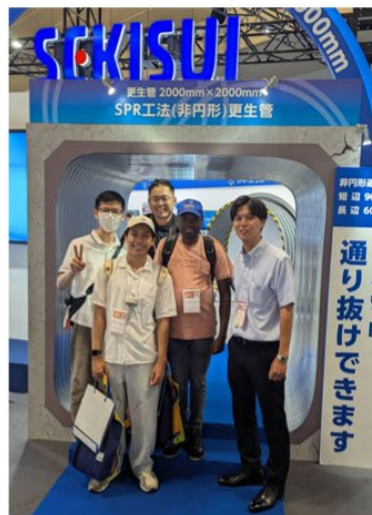
Contents

「下水道展ツアー」を実施！ 若手研究者・技術者に業界の魅力を発信

7月31日、若手研究者・技術者に下水道業界の魅力に触れる機会として、下水道展ツアーを実施しました。Japan-YWPメンバーをコーディネーターとして、事前に参加登録いただいた産官からの若手研究者・技術者が、学生とともに下水道展を回りました。ツアーは午前と午後で計2回開催しました。参加者はみな、規模の大きさに圧倒されていました。出展者数 350社、出展小間数 1,186小間とは、とてもつものない規模ですね。どのブースもたくさんの来場者で賑わっており、ブースに入る前からワクワクが止まりませんでした。

最新のセンシング技術や下水処理技術、ポンプやブロワなどの装置、さらにそれらの要素を組み合わせたシステムを紹介する企業や団体が多数出展しており、各自の業務や研究に関連する技術から初めて触れる製品まで幅広く見学しました。参加者の多くは下水処理場内で業務や研究開発に取り組んでおり、管路の更生工法における最新技術の紹介ブースを見学した際、地下埋設管路の更生技術に感銘を受けていました。施工事例や新技術の特徴について直接説明を受け、実際の設備やサンプルを見ながら理解を深めました。特に、実物大の更生管モデルを使った展示では、管径や施工方法の違いによる効果を体感でき、活発な質疑応答が行われました。また、水質計測技術のブースでは、リアルタイムでの水質モニタリングを解決するための最新センサーや測定システムを見学しました。現場で活用されている最先端技術を身近に感じることができました。

まだまだ書きたいこといっぱいなのですが、会場全体の様子や来場者・出展者の感想等については[こちら](#)からご確認ください。本ツアーは、国内外の若手研究者・技術者にとって、下水道業界の動向を知るだけでなく、ネットワーキングの場としても有意義な機会となりました。Japan-YWPでもいつか下水道展に匹敵するほどの魅力いっぱいのイベントをいつか開催できればと思いましたが、いつになることやらって感じです。Japan-YWPでは、今後も若手世代のスキルアップや視野拡大を目的としたイベントを企画し、研究者・技術者・企業の垣根を超えた交流促進に取り組んでまいります！



管路更生技術に関する
ブース見学の様子



水質計測技術に関する
ブース見学の様子

図5 下水道展ツアー

Hybrid Seminar on “BIO-ELECTROCHEMICAL TECHNOLOGY FOR ENVIRONMENTAL PROTECTION”

Venue: Regional GX Innovation Co-Creation Center, Nagaoka UT
(Zoom link will be sent via email after registration)

Topic: *bio-electrochemical system, microbial electrosynthesis system, microbial fuel cell, anion exchange membrane*

September 2nd 2025
(11:00-14:00 JST)

Language: English

Speakers:



Prof. Tjandra Setiadi, Ph.D.
Professor
Bandung Institute of Technology

Peter Babiak, Ph.D.
Scientist
OIST Graduate University



Dr. Thu Huong Nguyen
JSPS Postdoctoral Fellow
Kyoto University

Calvin Tae Hyun Chung, M.Sc.
Co-Chair
Canada-YWP



Special guest



David J.W. Simpson
Founder and CEO
Watasumi Co., Ltd.

Opening remarks



Dr. Youhei Nomura
Chair
Japan-YWP

Closing remarks



Dr. Takahiro Watari
Associate Professor
Nagaoka UT

FREE!

Registration



Deadline: Sept 1st, 2025
(17:00 JST)

Hosts



Kharisrama Trihatmoko
PhD Candidate
Nagaoka UT



Alejandro Martinez
PhD Candidate
Nagaoka UT

Organizer:



Supported by:



Contact person: s215001@stn.nagaokaut.ac.jp

Introducing “The Future is Now”
at Indonesia-the Netherlands Pavilion
Osaka Expo, October 9th, 2025

Hybrid Seminar on
“Bio-Electrochemical Technology for Environmental Protection”

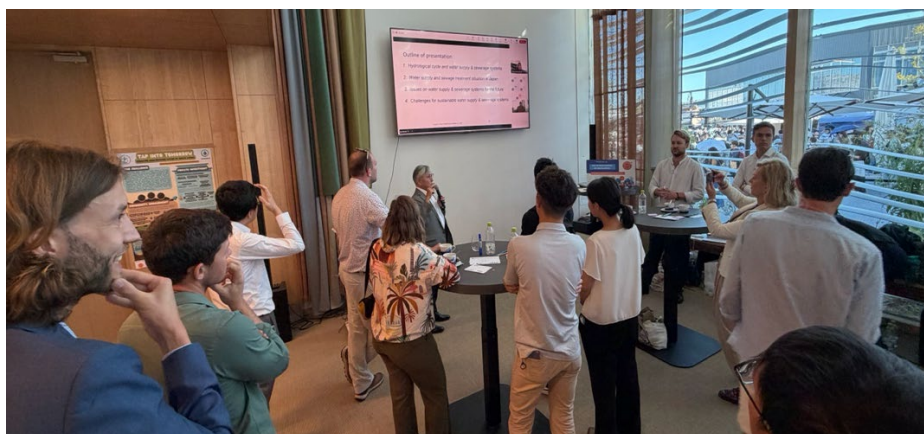


図7 Japan-YWP×Wavemakers United共催 "Future is Now"



図8 お仕事セミナー2025@関西、関東



图9 The 19th IWA Conference on Sludge Management

これからの水の未来を みんなで描く

水の大循環を表す流域図をベースに、参加者全員の専門分野や興味関心の位置関係を示すJapan-YWPコミュニティマップを作ります。参加者同士を繋ぐJapan-YWPコミュニティマップを通じて、水の未来を一緒に考えてみませんか？

**参加
無料**

2026年3月8日（日）13:00～18:00（受付12:30～）
一橋講堂 2階 中会議場

プログラム

12:30 受付開始
13:00 オープニング
13:30 参加型企画（グループディスカッション・全体共有）
プロのグラフィックレコーダーが、皆さんの思いをリアルタイムでマップとして描きます。
17:00 クロージング
18:00 懇親会（参加費無料！）

※プログラムの詳細は予告なく変更する場合があります。

■参加登録フォーム

下記QRもしくはURLより
ご登録ください。

<https://x.gd/54fVv>



※事前の参加登録が必要です。
登録〆切：2月22日（日）

■会場アクセス（一橋講堂）

東京都千代田区一ツ橋2-1-2



最寄駅：神保町駅より徒歩4分、竹橋駅より徒歩4分

詳しくはJapan-YWPホームページ（<http://www.japan-ywp.site/index.html>）をご確認ください。



図10 Japan-YWP15周年記念シンポジウム

■会計報告

2025年度の経理状況(2026年3月8日時点)を表3に示す。西原育英文化事業団より助成を受けるとともに、株式会社日本水道新聞社、第19回 IWA 汚泥管理に関する国際組織委員会より寄附を受けた。寄附実績は本会ホームページにて公開している。支出は、以下のように分類し、必要な経費として適正に執行した。

- ・ **運営費**: ホームページの制作と維持、メーリングリストの管理等に係る費用
- ・ **会議・イベント開催費**: 事前ミーティングおよびセミナーの実施に係る費用
- ・ **旅費**: 講演者やJapan-YWP運営委員の移動にともなう交通費および関連経費
- ・ **備品購入費**: セミナーの運営・記録・配信等を目的とした機材や消耗品の購入費用
- ・ **雑費**: 旅費の振込手数料

表3 収支報告

収入		
前年度繰越		¥1,198,801
収入(助成金、寄附金、利息など)		¥6,601,865
合計		¥7,800,666
支出		
運営費		¥261,976
会議・イベント開催費		¥3,730,320
旅費		¥1,634,199
備品購入費		¥1,650
雑費		¥34,176
合計		¥5,662,321
残高		
移管資金	期首残高	¥7,800,666
次期繰越	活動増減差額	¥5,662,321
移管資金	期末残高	¥2,138,345

■次期代表の推薦

第8期の任期満了に伴い、第9期(2026～2027年度)の運営体制について以下の通り提案し、承認された。

次期代表候補者： 中屋佑紀 氏(所属:北海道大学)
石井淑大 氏(所属:国土交通省国土技術政策総合研究所)